

(様式第1号)

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 研究No.<br>(記載不要) | 19 - 文芸 - 2 |
|-----------------|-------------|

平成19年度配分 研究成果の概要

|                 |                           |      |                    |                       |                    |
|-----------------|---------------------------|------|--------------------|-----------------------|--------------------|
| 研究名             | ユニバーサルデザインの地域での実践に向けて その2 |      |                    |                       |                    |
| 配分を受けた特別研究費     | 文化・芸術研究センター 特別研究費         |      |                    |                       | 780 千円             |
| 研究者氏名<br>(代表者)  | 学部名<br>(研究科名)             | 学科名  | 職                  | 氏名                    | 共同研究の<br>場合の分担     |
|                 | デザイン                      | 空間造形 | 教授                 | 古瀬 敏                  | 国内外との連絡調整、まとめ      |
| 共同研究者           | 文化政策                      | 文化政策 | 教授                 | 根本 敏行                 | 地域との連絡調整、自治体施策等の検討 |
|                 |                           |      |                    |                       |                    |
|                 |                           |      |                    |                       |                    |
|                 |                           |      |                    |                       |                    |
|                 |                           |      |                    |                       |                    |
|                 |                           |      |                    |                       |                    |
| 発表の方法<br>(予定で可) | 1 紀要                      |      | 号数                 | 第 9 号<br>(2009年 3月発行) |                    |
|                 | 2 学会等での発表<br>学会等名:        |      | 発表日<br>(発表<br>予定日) | 平成 年 月 日              |                    |
|                 | 3 その他<br>発表の方法:           |      | 発表日<br>(発表<br>予定日) | 平成 年 月 日              |                    |

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

大学の建学の理念として位置づけられているユニバーサルデザインを、地域での実践につなげていくため、文化芸術研究センターを中心として発信するとともに、研究グループを構築し運営していく手法を検討する。これは、平成 17 年度末にまとめられた「センターのあり方に関する検討報告書」を踏まえようとするものである。

平成 19 年度は、18 年度のユニバーサルデザイン国際セミナー実施の成果等もふまえて研究を継続する。

(研究の実施方法等)

- 1) 本学の UD 研究ポテンシャルの地方自治体施策への反映方策検討
- 2) 静岡県、浜松市等での UD 施策検討の場への参画
- 3) 米国フロリダ州セントピーターズバーグで開催された「高齢化と障害に関する国際会議」に参加しての情報収集

(得られた成果等)

- 1) 着実に UD が地域で定着しつつあることがわかった。とくに浜松市においては、施策の評価に関して、現実を踏まえた評価方法の導入を提案することができた。
- 2) 米国において開催された会議に参加して、米国における高齢化に伴う課題とそれへの対応の試みについて情報を把握できた。